

板倉雅宣

# タイポグラフィ論攷

朗文堂

本木昌造の呼称

本木昌造 長崎ゆかりの地

『學問のすゝめ』活字版

グーテンベルグが作った活字の高さをめぐって

ギャンブルがつくった日本語かな活字

マージナルゾーンの語源を探る

〔史料〕中国の母型と活字に関するホフマンの報告 日本語訳

見本

本木昌造の呼称

本木昌造の呼び名について、「モトキ」というのと「モトギ」というものがある。

一般的には「モトキ」と呼ばれてきたが、「モトギ」という呼び名があることがわかってきた。本人のサインがあればはつきりするが、早川浩が「本木昌造と近代」p.20-31、『活字文明開花 本木昌造が築いた近代』(二〇〇二年一〇月六日)印刷博物館 開館三周年記念出版 p.25. に「通詞堀達之助と共に作成した日米和親条約書に、印された昌造のサインが今も残っている」とある。

「もとき」か「もとき」か、という記事がインターネットにある。本木の発音については、「もとき」または「もとき」の二説はあるが、日英和親条約(安政元年)の条文に、オランダ語翻訳に携わった本木昌造が「Moroki Shiozo」という自筆サインを書き込んでいることから、発音は「もとき」であった可能性が高い、というものである。

そこで、日米和親条約や日英和親条約の原文を外務省外交史料館で調べたが、本木のサインは見つからなかった。

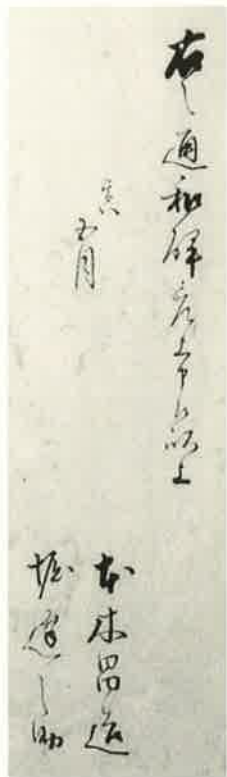
後日、八木正自著「歴史の実物を手にして、本木昌造自筆「日米和親条約付録 下田条約 和解草稿」を『日本古書通信』869号 二〇〇一年一二月二五日に掲載されているのを見つけた。小さな写真版が掲載されていたが、自筆というのはローマ字でサインしたものでは無く筆で書いたものであった。

日付は、一八五四年六月一八日(日本嘉永七年五月二二日)「日本

国米利堅合衆国和親条約附録」一三條で下田条約といわれるものである。「右之通和解差上申候以上 本木昌造 堀達之助」と筆で本木昌造のサインがある。

『大阪印刷界』本木号 明治四五年六月号(第32号)にも「日本国米利堅合衆国和親条約」一三條からなる条文が掲載されている。嘉永七年三月三日となっているので最初の条約である。西暦一八五四年三月三一日にあたる。これにも「右之通和解差上申候以上 本木昌造 堀達之助」という文章がついている。

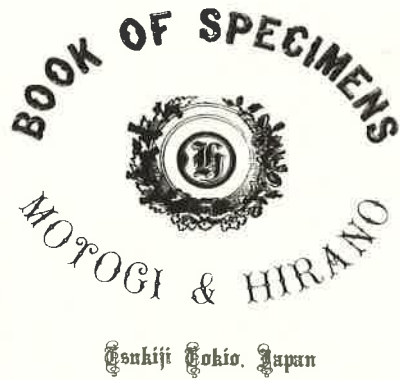
図：日本国米利堅合衆国和親条約の本木昌造の自筆毛筆サイン 江戸東京博物館蔵



このサインは現在、江戸東京博物館に所蔵されている。「八丈島開港其外見込之義ニ付申上候書付」の最初の頁にも記載されている。

本木家の自筆欧文サインを見ると、三代本木榮之進Ⅱ仁太夫の時代一七八四年にはすでにMorogiと称していたことがわかる。四代本木正榮Ⅱ元吉の時代もMorogiと称したが、五代昌榮Ⅱ庄左衛門Ⅱ元吉はMorogi Gekitsと例外的にMoroki Siosajimonと

図：『BOOK OF SPECIMENS MOTOGI & HIRANO Tsukiji, Tokio Japan』一八七七年 扉  
平野家所蔵



図：『Life of Morogi Nagahisa, Japan's Pioneer Printer』『印刷雑誌』一八九三年二月二十八日—五  
回連載 印刷図書館蔵

of the Nagasaki Shin-machi Type Foundry, the Tokyo Tsukiji Type Foundry and the Osaka Kita-Kyutaro Machi Type Foundry. The other half went over to the *Kobu Sho* (Department of Public Works,—now abolished), and started the Kwankoryo Printing Establishment, then the Daijo Kwan (Cabinet) Printing Bureau, which is the modern *Insatsu Kyoku*, or Imperial Printing Bureau.

By this time the great deed of the Restoration was accomplished. All the feudal lords had to relinquish their estates and were thus unable to give their vassals their hereditary emoluments. A hundred thousand feudal vassals or retainers were thus deprived of the means of livelihood and forced to work for their own living. Shozo persuaded his fellowvassals to work as printers. So his house became a printing-office and his late comrades-in-arms learned how to set up type. He also sent Messrs. Obata Seizo and Sakai Sanzo to Osaka to consult with Mr. Godai Saisuke (or Godai Tomoatsu) as to the practicability of establishing a printing-house in that city. But the health of the newly-fledged printers, after having been accustomed to long years of luxurious and idle life, began to suffer in consequence of their continued labours. At last, in the fourth year of Meiji (1872), Shozo entrusted the management of the Shin-machi Type Foundry to Mr. Hirano Tomiji. He instituted many radical changes and brought

THE LIFE  
OF  
MOTOGI NAGASHISA,  
JAPAN'S PIONEER PRINTER.  
(continued.)

Thus while engaged in navigation or his duties as an iron-founder, he never lost sight of the types he had once invented. By chance he heard that an American missionary had built a printing establishment, called *Meikwa Shingwan* (美華書院) in Shanghai, and that good types were cast there. He sent a man to learn the art, but in vain, for it was kept a secret. He then heard that Mr. Shigeno Konojo (or Shigeno Anyeki) had bought types in Shanghai. He requested this gentleman to sell him all he had. Taking the foreign types as models, he tried to reproduce them; but his efforts did not meet with success. Just at this time it happened that Mr. Gunberg, an American and a member of the *Rikwa Sho-in*, passed through Japan on his way to the United States. Shozo got an introduction to this gentleman through the Rev. Dr. Verbeck, and requested him to stop over in Nagasaki. The consequence was that a printing-house was built and the casting of types begun. The persons who were engaged in this, the first of all Japanese type-foundries (the *Kwappan Denshu-sho*), afterwards separated into two parts. One half became the originators

図：タイボグラフィー学会 本木賞メダル  
『MOTOGI』となつてゐる



も称した。六代本木昌造は条約締結の際にはMorokiと称していたらしいが其の資料が見当たらない。

Motogiとつうのは本木昌造が没した直後、明治十年に発行された『BOOK OF SPECIMENS MOTOGI & HIRANO Tsukiji, Tokio Japan』一八七七年 活版製造所 平野富一発行といふ活

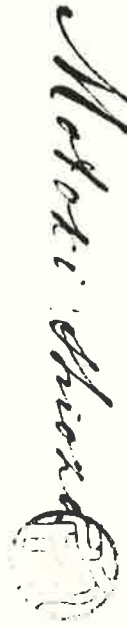
字見本帳の表題がMOTOGIとなつてゐることから、これ以降の出版物等はMotogiといわれるようになった。同じく明治二十六年の『Life of Morogi Nagahisa, Japan's Pioneer Printer』『印刷雑誌』一八九三年二月二十八日—五回連載にもMorogiとなつてゐる。

東京大学史料編纂所の日本関係海外史料のマイクロフィルム資料から、イサベル・ファン・ダーレン女史に調べていただいた。

この結果、『オランダ商館文書』マイクロフィルムNo.6998-1195に本木昌造の自筆サインがあることがわかった。一つはMoroki Shiozoといふもの。フィルムナンバー191aの書簡で、出島への出入りを一八八五年一〇月一日から自由にするという証明書のおランダ語訳をした品川藤兵衛、本木昌造の自筆サインである。「永久」という印鑑も押されている。一八五五年九月三日のものである。もう一つは、肥前守鍋島新左衛門の船の注文書

で、フィルムナンバー180にM. K. Shiozoとなっている。M. はmotokiの略であり、いずれもMotokiとなっている。一八五五年一月三日のものであり、このほかにもM. K. のサインは沢山載っている。

図：本木昌造の自筆サイン Motoki Shiozo 永久の丸印鑑がある 東京大学史料編纂所蔵 191a



図：本木昌造の自筆サイン M. K. Shiozo 東京大学史料編纂所蔵 180



図：本木昌左衛門 Motoki Shosajimon のサイン  
フィルムNo.6998-6-1-12. 1823.7.25. 東京大学史料編纂所蔵



本木が Motoki と称されていたのは、本木庄左衛門まで、つぎの昌左衛門は Motoki と称している。昌左衛門と昌造は Motoki と名乗っていたのである。

これで本木昌造が Motoki か Motogi かの問題は、Motoki であることがはっきりした。本木の先祖は Motogi と称していたが、Motoki は昌左衛門と昌造の二代に亘って使用している。

本木が亡くなったことを忍んで、イギリスの印刷雑誌ブリテイシ・プリンターは哀悼文を載せている。Ah! where shall we find another Motoki? So pure in heart so just in principles, Alas! had his life been prolonged, how great would have been the benefit reaped by the Imperial Japan. "British Printer" vol.7. No.5. 1894. じつでも Motoki となっている。

日蘭の海事刑事法典の原案(一八五五年)にも本木昌造のサインがある。

この他「もときしよぞう」『印刷事典』印刷学会出版部一九五八年、「もときしよぞー」『高等小学読本卷之七』文部省明治三十六年十二月二十七日発行「第二課わが國の活版印刷術の起源」洋式の印刷術を、はじめて、わが國に傳へたるは本木昌造(もときしよぞー)といふ人なり。「一九一〇年として、「もときしよぞー」とルビが振つてあり、翌年の学海指針社の教

科書にもあるので、これが世間一般に広まったものである。「もとぎ」という呼称は、わが国では一般に広く言い慣わしてきた。

日仏で発行された“Bewogen Berekingen 400 jaar Nederland-Japan” 2000. 、「日蘭交流四〇〇年の歴史と展望」「日蘭交流四〇

〇周年記念論文集」もMotokiになつてゐる。二代目良意\*Ryōi榮久

Motoki Ryōi, \*Eikyū (of Ryōi) 三代目良固\*Ryōkoku仁太夫\*Nidaiyū。

\*Ryōko 四代目良永\*Mōryōki Ryōei, \*Nidayū, など、いずれもMorokiと表示されてゐる。

以上に見てきたように、本木昌造は本人のサインが示している

ように「もとぎ」と濁らない言い方で称してきたのである。

昌造の没後になつて「もとぎ」と濁つた表記にしたのは祖先の表記が「もとぎ」であつたからであらうと思われる。

以下に、調査した資料を挙げる。

本木家の文書、「和蘭一千七百九十有五『諸雑書集』寛政七次卯年正月輯之」に欧文の自筆サインが載つてゐる。

図：『高等小学読本卷委之七』文部省「第二課わが國の活版印刷術の起源」東書文庫蔵

## 第二課 わが國の活版印刷術の起源。

わが國にては、奈良朝時代より、木版印刷術おこり、足利

高讀七  
高讀七

さて、かゝる便利なる、洋式の印刷術を、はじめて、わが國に傳へたるは本木昌造といふ人なり。

昌造は長崎の人、父祖の業をつぎて、おらんだ語の通辯

四代 本木良永 仁太夫 初称 榮之進 茂三郎 字は土清  
号は蘭臯  
Motogi Enosin 『蟹錨図』 1782. 生没年 (1735-1794)

図：本木良榮Ⅱ榮之進の自筆サイン カリグラフィーで書かれたように美しく描かれている 神戸市立博物館蔵



Motogi Enosin 本木家文書 『諸雑書集』

No.41. 「鳥類持渡りに関する通詞仲間の願書」 1784.10.12.

『コレクションの精華 つたえたい美と歴史』神戸市立博物館 2008. p.58.

Motogi Enosin 本木家文書 『諸雑書集』

No.74. 「諸色売込人・遊女小使による商館員算用引合証明書」

1786.1.1.

Motogi Enosin 本木家文書 『諸雑書集』

No.72. 「商館員算用引合書」本木榮之進立会による諸色売込

人・遊女小使の署名入り証明書付 1786.5.

Motogi Nidaaiju 本木家文書 『諸雑書集』

No.45. 「長崎奉行水野若狭守達書蘭訳会所調役および年番

年寄宛」

1789.7.27.

Motogi Nidaaiju 本木家文書 『諸雑書集』

No.52b. 「商館長宛達書蘭訳」

1789.5.27.

Motogi Enosin 本木家文書 『諸雑書集』

1795.

Motogi Nidaaiju 和解稿印署 本木蘭文 『諸雑書集二』所収

〔平岡隆二「長崎の印章」―蔵書印を中心に―長崎歴史文化博物館 研究紀要 第五号 2011.3. 抜粋〕

図：本木良榮Ⅱ仁太夫の自筆サイン 平岡隆二「長崎の印章」より



五代 本木正榮 庄左衛門 初称 元吉 字子光 号は聯芳軒

蘭汀 香祖堂 後改庄太右衛門

生没年 (1778-1812)

M. Genkits 本木家文書 『諸雑書集』

No.77. 「本木元吉注文書」

1785.10.26.

\*Siosaijmon 本木家文書 『諸雑書集』

No.59. 「商館長ケンシー宛日本人妻誕生祝書簡」1795.7.24.

\*Siosaijmon 本木家文書 『諸雑書集』

No.61. 「商館長ケンシー宛て誕生祝書簡」 1797.5.22.

Motogi Genkits, M. Genkits 本木家文書 『諸雑書集』

No.99. 「オランダ語言葉遊び・成句・諺・俗語表現集 本木



元吉収録」

年第不詳

Moroki Siosajimon 和解稿印署 本木蘭文『諸類書 卷之一』

「安永七戌年銅一件 安永八亥年御用写(寛政五年写)」所収

[平岡] 1878 (1893)

図：本木正業「庄左衛門の自筆サイン Moroki Siosajimon 平岡隆二



六代 本木昌榮 昌左衛門 茂吉郎 久美 生没年 (1801-1873)

Moroki Siosajimon ? ?

M.K.Siosajimon No.45. 1850.12.4.

No.254. 1855.10.8.

図：本木昌左衛門のサイン M.K.Moroki 東京大学史料編纂所蔵



点林堂 笑三 生没年 (1824-1875)

M.K.Shiozo No.153. 1855.8.8.

No.281. 1855.10.16.

Moroki Shiozo No.191a. 1855.11.9.

昌造の没後(一八七五年)に発行された出版物では下記の通り「  
それもMorogi.となつてゐる。」

Morogi 『BOOK OF SPECIMENS MOTOGI &

HIRANO Tsukiji Tokyo Japan』1877. 活

版製造所 平野富二発行 1877.

Morogi 『紀元貳千五百三拾九年 明治拾貳年卯第六

月 BOOK OF SPECIMENS MOTOGI &

HIRANO Tsukiji Tokyo Japan 改訂』1879.

東京築地活版製造所活字見本帳 印刷 図

書館蔵 1879.

Morogi Nagahisa 『Life of Morogi Nagahisa, Japan's Pioneer

Printer』 1893.

『印刷雜誌』1893.2.28—五回連載 1893.

Morogi Nagahisa 『Life of Morogi Nagahisa, Japan's Pioneer

Printer』 1893.5.26.

曲田成編 東京築地活版製造所印刷 印刷

図書館蔵

七代 本木昌造 幼名(作之助元吉) 永久 咲三 昌三 語窓



Morogi Nagahisa 『Life of Morogi Nagahisa, Japan's Pioneer

Printer』1893. 転載

Morogi Shozo 東京築地活版製造所「記念見本帖」

“Specimen Book of Types”

「活版見本」野村宗十郎 M36.11.1. 1903.

『印刷事典』一九五八年版では本木昌造は

「もろぎ」としてあつたのが、「もろぎ」と

改めて紹介された。

Morogi Shozo 印刷博物館『活字文明開化』図録 2003.

This exhibition focuses on the achievements

of MOTOOGI, Shozo, a printer who introduced

letterpress technology to Japan in the Meiji

Era.

Morogi Shiozo Education of the 'Kangien' and Influence of

Foreign Teachers on Early Japanese Photogra-

pher, Hikoma Ueno 2009.

一般的にはMorokiが多くなつてゐる。

Moroki Shiozo 『オランダ商館文書』東京大学史料編纂所

史料

microfilm No.6998-1-119-5. No.191a. 発信

された書簡の保証書の蘭訳 オランダ人が

一八八五年一〇月一日(和暦一〇月三日)

以降は出島の外に番人なしに自由に出るこ

とが出来た証明書 翻訳者 Sinagawa Tabei,

Moroki Shiozo 印 30. 開 9.1855. (9Nov.1855)

microfilm No.6998-1-120-1 No.180. M. K.

Shiozo 肥前守鍋島新左衛門の船の注文書

M. K. 44 moroki の略 (3.10.1855).

『大坂人物辞典』三善貞司、清文堂 大坂文

化財保護課。

本木昌造 (1853-1896) 2000.

Motoki Shozo "Japan Encyclopedia" Louis-Frédéric p.129.

Chuzo-Katiji 2002.

W. Gamble, was invited to Nagasaki by Moroki

Shozo, an interpreter with the shogunate.

Motoki Shozo "Een Miskend Genesheer" Dr.Jan Karel van

den Broek en de overdracht van kennis van

westerse technologie in Japan 1853-1857.

Herman J.Moeshart 2003. p.89, 181, 191.

Moroki Shozo "Gutenberg in Shanghai: Chinese Print

Capitalism, 1876-1937" 2005.

Christopher A. Reedhttps://books.google.co.jp/books

p.308. note:103. 384pp. According to Peter Kornicki.

The Book in Japan (Leiden: Brill,1998), Gamble was invited to Japan by Motoki Shozo (1824-

75), a Bakufu interprinter stationed in Nagasaki, who had purchased a press from

the VOC in 1848. By the late 1850's, Motoki had learned to cast karakana type

and had produced Japan's first "modern books," bound in the Western style and

dealing with natural science, infantry training, etc. Prior to Gamble's arrival, Motoki and his

student had disseminated type-founding and typography from Nagasaki. Gamble's arrival

led to the popularization of his Song/Meihua type face, which the Japanese call

Ming-dynasty type (mincho tai).

"Books in Numbers: Seventy-fifth Anniversary of the Harvard-Yenching Library ..." Wilt L.Idema Hong Kong p.320. 2007.

Motoki Shozo "Articulating the Sinosphere" Sino-Japanese relations in Space and Time. Joshua A. Fogel 2009.

Motoki Shozo http://luc.devroye.org/fontes-42700.html 2017.

McGill University Montreal, Canada H3A 2K6

外国の本を「かこむ」になつた。

注) Motoki Shozo ホレンタ商館文書 (No.6998-1-123-215. (一八五五年)) の Motogi とある。

Onderschreven : Minna Motomo Yei-Ye-Yeas. Surunga. I d. 9. m.18. jaar van onze Dattij. en Verraling door K. Graafland aan

Mijnheer Motogi Siozo, Nagasaki, Afschrift aan "Mijnheer Motogi Siozo, Nagasaki, met Complimenten en heilwenschen"

door R. W. Clarks..

署名：みんな 尤も、イエイ・イエ・イエス スルンガの日付で 一八年九月三日。グラーフランドによつて長崎の通訳で親友

の本木昌造に翻訳した。クラークによつて敬意と祝福のごと

はを添えて本木昌造に複写した。  
ひじごめ (Minna Motomo Yei-Ye-Yeas) とする署名は一八二四年 ロンドンで発行された Captain Golownin 著 "Memoirs of A

Capacity in Japan”の序文に掲載されている。  
 このように、本木昌造はMorokiであるにせよ、一般にはMorogi

と呼ばれていたのかも知れない。

図：本木家は榮之進から元吉まではMorogiであったが、昌造の父昌左衛門になると、Morokiと名乗った。ただし、庄左衛門は最初は例外的にMorokiと名乗ったようである。

